平成２２年度

第２回延岡市地域公共交通活性化協議会

日　時：平成２３年2月２８日（月）１３時３０分～

場　所：延岡市役所 講堂

平成２２年度

第２回延岡市地域公共交通活性化協議会

次　　第

１．開　会

２．あいさつ

３．協議事項

(1) 平成 22 年度延岡市地域公共交通活性化・再生総合事業の事後評価について

(2) 平成 23 年度延岡市地域公共交通活性化協議会事業計画（案）及び予算（案）について

４．その他

５．閉　会

地域公共交通活性化・再生総合事業
事後評価

平成２２年度（２年目）

協議会名：延岡市地域公共交通活性化協議会　　別紙2

計画事業に係る事後評価記載様式（初年度・2年度目）

Ⅰ　総合評価

地域の主体的な取組みと創意工夫による公共交通の活性化・再生を通じ、個性豊かで活力に満ちた地域社会実現に寄与するために適切な事業を選び出し、当該事業を本格実施する環境を整備するための検討を行ったか。

法定協議会を開催し、「地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針」や本市の公共交通の課題を抽出したうえで、その改善方策について今後の方針を示すため、平成19年度に策定した「延岡市地域交通計画」の趣旨を十分に踏まえ、地域の実情に応じた、効率的・効果的で持続可能な公共交通網の構築に向け、住民アンケートによるニーズ調査を踏まえた経路の変更や延岡市バス利用促進協議会による利用促進事業を行いながら、試行的に事業を行い、検証・検討を行った。

Ⅱ　計画事業の実施

①　事業計画に位置づけられた事業が適切に実施されたか。事業計画に位置づけられた事業が事業計画どおりに実施されなかった場合には、適切な理由等が明らかにされているか。

総合事業計画に位置づけられたコミュニティバス・乗合タクシーについて、22年度は旧延岡市内の4路線及び北方町、北浦町において実証運行を行った。

利用状況は、4月1日から11月末までで、上三輪・中三輪～細見線が109人、安井・神戸～川口線が158人、小川～平田線で224人、須佐・鹿小路線で16人が利用した。

北方町においては、3,158人、北浦町においては、2,325人が利用した。

なお、住民アンケートや本協議会での検討を踏まえ、上三輪・中三輪～細見線と安井・神戸～川口線については、経路の見直し・延長を実施した（23年1月開始）。

コミュニティバス・乗合タクシーの導入準備としては、路線の延長に伴う経路に必要な停留所の作成や住民啓発用の時刻表等の作成・配布を行った。

バスの利用促進・情報発信としては、「延岡市バス利用促進協議会」と連携し、市内路線バスとコミュニティバス・乗合タクシーの路線図の作成・配布（5千部）、小学生、高齢者を対象とした「バスの乗り方教室」の開催（H22年度：小学校7校・高齢者は試験的に実施）、市内路線バス停留所への上屋の設置（1箇所）並びにベンチの設置（10箇所）を行った。

Ⅲ　具体的成果

①　定められた評価方法・評価基準にしたがって、評価事項について事業を評価したか。その際、事業の効果・影響とそれ以外の効果・影響を分離して評価したか。

評価事項として、公共交通空白地域の解消、病院、学校等へのアクセス向上等住民の生活の資的向上などを掲げている。

初年度と2年目に実施したアンケート全体では、利用者の目的別の割合は、通院が49.2%、買物が37.3%で、この2つの目的だけで86.5%を占め、この2つに非常に高いニーズがあることが認められるとともに、当初定めた目的どおりでもある。

コミュニティバス・乗合タクシーの実証運行については、系統ごとに毎月利用者数を把握し、1回あたりの平均乗車数の推移で事業評価を行った。

利用促進事業のうち、この2年間でベンチ16基（内今年度分10基は寄附により無償で実施）、上屋2基を整備し徐々に利便性の向上が図られている。小学生を対象にした乗り方教室では、バスに乗ったことがなかったという子どもがまだまだ多く、本事業を通じて啓発を行う必要がある。試験的に参加した高齢者についても、乗り方が分からないという人が多く、高齢者を対象とした利用促進事業も必要である。

② 実施した事業が地域公共交通に関する目標を達成するために適切な事業であるかどうかを検証したか。
平成21年4月から実証運行を開始した2路線（上三輪・中三輪～細見線、安井・神戸～川口線）においては、21年度に住民アンケートを実施し、それによると通院、買物での利用割合が高く、当初の目的どおり利用されているが、さらに利用者のニーズを踏まえ、今年度、経路の見直しを実施した。 平成21年7月から実証運行を開始した「須佐・鹿小路線」「小川～平田線」については、今年度、住民アンケートを実施し、それによると同じく通院、買物での利用割合が高く、当初の目的どおり利用されている。 今後も、通院・買物という高いニーズを踏まえつつ、利用者の利便性向上のため、アンケート結果を踏まえた見直しや、チラシ配布などによる利用促進活動の強化が必要である。

＊必要に応じて、参考資料を添付して下さい。

Ⅳ　自立性・持続性

1　事業の本格実施に向けての準備

①　実施した事業を翌年度実施するにあたって問題点があるかどうかを検証したか。

沿線住民アンケートは昨年度の上三輪・中三輪～細見線、安井・神戸～川口線に引き続き、今年度小川～平田線、須佐・鹿小路線にて実施し、住民ニーズを把握するとともに、次年度に向けて課題を検討中である。また、「延岡市バス利用促進協議会」による利用促進のみならず、市の広報紙やホームページ、ケーブルテレビの市政に関する番組などにおいて利用促進に関する広報を行うなど取り組んでいる。

②　実施した事業について利用者数が想定をかなり下回るなど効果が現れていない場合には、翌年度事業を実施するにあたって必要な見直しを行っているか。翌年度も同じ事業を実施する場合には、適切な理由等が明らかにされているか。

コミュニティバス・乗合タクシーの実証運行については、住民アンケート調査の結果、通院、買物の利用者が多いことが確認され、当初の目的を達成するために適切な事業である。
事業実施にあたっては、利便性を向上させることで利用者数の増加を図るため、上三輪・中三輪～細見線、安井・神戸～川口線について、アンケートの要望を踏まえ、民間路線バスへの接続、病院や商業施設へのアクセス向上を図る方向で経路を見直した。
今後も、アンケート結果を踏まえた路線の見直しやチラシ配布などによる利用促進活動の強化に努め、利用者数をさらに向上させ、経費削減を図る。

2　事業の実施環境

①　当該事業の翌年度実施のための財源について検討を行い、財源の目処がついたか。

平成22年度において、コミュニティバス・乗合タクシーの導入準備、コミュニティバス・乗合タクシーの実証運行、バスの利用促進・情報発信などの事業を実施するにあたり、総合事業による国費のほか、延岡市からの財政支出によることで関係者の合意が形成されており、延岡市の平成23年3月延岡市議会定例会に平成23年度予算案を提出し、市議会において審議予定。

②　住民等による自主的な利用促進、啓発等の活動や協賛金拠出への協力等当該事業を翌年度実施する環境を整備しているか。

交通事業者や商業団体、市民団体、行政等により「延岡市バス利用促進協議会」を組織し、バス利用者の利便性向上に資する各種施策にソフト・ハードの両面から取り組み、バス路線の利用促進を図っている。

③　当該事業の本格実施のための財源について検討を行ったか。

事業構築の段階から、市が公共交通に負担していた事業費の中で、交通空白地域の解消や住民サービスの向上を図るとともに、行政コストを抑制することを基本的考え方としており、一定の需要を喚起しながら、市の財政負担を極力抑えることを目標としている。

＊必要に応じて、参考資料を添付して下さい。

Ⅴ　住民の参加等による地域関係者の実質的な合意形成
①　協議会における審議事項が明確に定められ、計画事業の進め方、実施状況について審議される体制となっているか。
法定協議会の規約等が平成21年2月の第1回法定協議会で協議・決定されており、連携計画の作成に関する協議及び連携計画の実施に係る連絡調整を行うことが規定されている。
②　協議会に住民が参加したり、住民の意見が反映される仕組みが設けられているか（公募制、住民意向調査等の実施が協議会の運営要領において定められているか。）。
法定協議会の委員に住民又は利用者の代表を加えることが規約に規定され、区長連絡協議会会長や高齢者クラブ連合会会長、PTA連絡協議会会長をはじめ、各地域協議会の会長なども参加し、協議を行っており、住民の意見が反映される仕組みとなっている。また、アンケートにより沿線住民の意向の把握を図っている。
③　計画事業を実施するにあたって協議会が適切に開催されているか。
平成22年1月21日に協議会を開催し、上三輪・中三輪～細見線及び安井・神戸～川口線沿線住民を対象にしたアンケートの結果検証及び事後評価の検討、22年度の事業計画、歳入歳出予算を審議。平成22年9月29日には、延岡市地域公共交通活性化・再生総合事業計画の変更審議及び補正予算を審議する協議会を開催した。 小川～平田線及び須佐・鹿小路線沿線住民を対象にしたアンケートの結果検証及び23年度事業計画、予算の審議は22年度内に実施予定。
④　協議会の議事が傍聴、議事録や関係資料の公開等によって適切に開示されているか。
会議は原則として公開することが規約に規定されており、会議開催の際は、報道発表を行っている。また、協議会の資料等を市のホームページで公開している。
⑤　地域公共交通に関する目標を達成するために適切な事業を翌年度実施することについて地域関係者の実質的な合意が形成されたといえるか。
協議会において、連携計画の審議・決定を行った上、市議会による審議を行い、また、市民へのパブリックコメントも実施されており、地域関係者の合意形成が図れているといえる。

＊必要に応じて、参考資料を添付して下さい。

別紙

個　別　評　価　票

協議会名　延岡市地域公共交通活性化協議会

Ⅰ．実施事業

①事業の実績

・事業実施開始時期

平成22年4月1日

・実施期間

平成23年3月31日まで

・事業概要　（実証運行にあっては、運行エリア（可能であれば路線図も）・運賃・運行時間帯・その他利用促進活動等特徴的な取組）事業計画どおりとならなかった部分があれば、その旨及びその理由を記載。

＜概　要＞
〇コース　　路線図参照
〇料　金　　200円（高校生以上・小中学生は100円、小学校就学前の小児は無料）
〇運　行　　時刻表参照
〇運行主体　　延岡市（道路運送法4条）
〇その他取組　利用促進のための「延岡市バス利用促進協議会」と連携し、市内バス路線図の作成・配布や路線バス停の整備（上屋・ベンチ）、小学生や高齢者を対象としたバスの乗り方教室などを実施。

Ⅱ．具体的成果

①事業名：

・設定した目標（総合事業計画で設定した目標を記載）

・公共交通の空白地域の解消
・病院、学校等へのアクセス向上等住民の生活の質的向上
・行政コストの抑制
・バスの活性化
・住民の公共交通の利便性等に対する満足度の向上

・事業成果（総合事業計画で設定した目標の達成状況を裏付ける指標を記載。事業実施の際に抽出したデータを記載する。可能な範囲で事業実施前後の指標の変化や、事業実施中の変化等も分析）

総合事業計画に位置づけられたコミュニティバス・乗合タクシーの実証運行
1回当りの平均乗車人員の比較(21年度→22年度（H22.11月現在））
上三輪・中三輪～細見線(1.1人→1.6人）
安井・神戸～川口線（1.7人→2.3人）
小川～平田線（3.7人→3.2人）
須佐・鹿小路線(0.3人→0.2人）
北方町（8.2人→8.0人）
北浦町（6.9人→6.9人）

コミュニティバス・乗合タクシーの導入準備としては、新たな乗合タクシーの実証運行に伴い、必要な停留所の作成や、住民啓発用の時刻表等の作成・配布を行った。
バスの利用促進・情報発信としては、「延岡市バス利用促進協議会」と連携し、市内路線バスとコミュニティバス・乗合タクシーの路線マップの作成・配布、小学生や高齢者を対象とした「バスの乗り方教室」の開催（小学校7校・高齢者は試験的に実施）、市内路線バス停留所への上屋の設置（1箇所）並びにベンチの設置（10箇所）を行った。

・事業分析（事業成果等を踏まえ、課題や問題点、評価すべき事項）

上三輪・中三輪～細見線、安井・神戸～川口線については、路線設置が平成20年10月で丸2年が経ち、利用者は増えつつある。住民アンケートの結果を踏まえ、23年1月からは、より利便性が高い経路に変更し、更なる利用率の向上を目指す。その上で今後の経過を見ながら住民アンケートを実施し課題等の洗い出しを行う必要がある。
小川～平田線、須佐・鹿小路線は、前年より若干利用率が減っている。両路線とも22年7月にアンケートを実施し、その際、利用の啓発も行っている。また、7月に、バス事業者のダイヤ改正に伴い、本2路線においても乗継可能なダイヤに改正を行った。小川～平田線は、1回当り平均3.2人の利用があり、旧延岡市内の路線では最も利用率が高いが、昨年度比、0.5人減となっている。この路線は絶対乗車数が少ないため、仮に年間を通して毎週乗っていた利用者が1人乗らなくなると乗車率が0.5人減少することになるが、アンケートによると以前は乗っていたが今は乗っていないと答えた人が2人おり、そのうち1人は病気のため、もう1人は理由不明である。一方、須佐・鹿小路線は、平均0.2人と最も低い利用率となった。昨年度は運行開始月に20人が乗車したものの、その後は低迷が続いているが、今年7月以降は、昨年度以上に利用客が戻ってきている。7月にはアンケートを配布しその際利用啓発も行った。このアンケートによると小川～平田線、須佐・鹿小路線沿線では「今は乗っていないが将来は利用する」と述べた人がそれぞれ38%、34%に上り、将来的なニーズはある程度はあると予測される。これは高齢化率が小川・細見町合計で30.2%、鹿小路・須佐町合計で37.6%であり、この地区の住民に将来の移動手段に対する不安が潜在していることに起因すると思われる（延岡市における65歳以上人口の割合：26.7%　H22.12.1現在の住民基本台帳より)。この2路線は目的（買物、通院）どおりの利用がなされているが、今後はこれらニーズも踏まえながら、乗車数の増加、行政コストの削減を目指した運行形態を検討する必要がある。
北方線、北浦線は利用者数が他路線に比べて多い。
しかしながら北方線においては1回当り乗車数が0.2人減となった。
この路線は8系統あるが、このうち昨年度より1回当りの平均利用者数の減少が見られたのは6系統であった。この路線はこれまで、路線の変更や増便、フリー乗降の実施など、住民ニーズを把握しながら利便性の向上を図ってきたが、今後もアンケートなどにより住民ニーズの把握に努め、利便性の向上を図る必要がある。
北浦線は、利用が横ばいであった。この路線は、これまでに福祉バスとの統合による路線延長や増便を実施してきている。この路線については、便によっては利用者が少ない所があるので、今後もアンケートなどにより住民ニーズの把握に努めながら、利用者がより多く望める便に見直すなど、効率的で利便性の高い運行を目指していく必要がある。

コミュニティバス・乗合タクシーの実証運行により、本市の公共交通の空白地域を無くすという目的は徐々に達成されつつあるが、今後も、アンケート等によるニーズの把握や利用促進活動を行いながら、効率的で利便性の高い運行を目指していく。

②事業名：

・設定した目標

・事業成果（事業から抽出したデータを記載する。可能な範囲で対比率追記）

・事業分析（事業成果等を踏まえ、課題や問題点、評価すべき事項）

Ⅲ．次年度に向けた検討

Ⅱ．の結果を踏まえ、当該事業が目標の達成に適切であったか、翌年度に継続する際に問題点があるかについて具体的な見直し内容を明示。

コミュニティバス・乗合タクシーの実証運行については、住民アンケート調査の結果、通院、買物の利用者が多いことが確認され、当初の目的を達成するために適切な事業である。今後は、アンケート結果を踏まえて、路線やダイヤの見直しなどの検討、チラシ配布などによる利用促進活動の強化に努め、利用者数をさらに向上させ、経費削減を図る。

さらに、現在、無償にて運行している福祉バスを有償化し、本市のコミュニティバスに組み込むとともに経路を増やし、経費の削減及び利便性の向上を図る。

Ⅳ．補助期間終了後の展望

最大3年間の計画事業補助期間終了後も自立性・持続性を保つため、補助期間終了後の展望を記載。
具体的に想定される必要な財源の規模・その目途を記載。

現在策定中の本市の長期総合計画においても事業の実施を位置づける予定にしており、補助期間終了後も取り組んでいくこととしており、行政コストを抑えながら交通空白地域の解消や住民サービスの向上を図る。

平成２３年度　事　業　計　画（案）

１　事業目的

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成１９年法律第５９号）第５条に基づき、「延岡市地域公共交通総合連携計画」を平成２１年３月策定したところであるが、これに定める事業を計画的・効率的に実施し、地域の実情に応じた公共交通網を構築することを目的とする。

２　事業計画

（１）コミュニティバス・乗合タクシーの実証運行

公共交通導入の必要性の高い交通空白地域でのバス・タクシー等の実証運行を行います。また、コミュニティバスや巡回バス等の運行形態や適切な利用料の見直しを行います。また、コミュニティバス・乗合タクシーの導入準備を行います。

・新規の乗合タクシー路線の検討及び実証運行
・既存のコミュニティバス・乗合タクシーの経路やダイア等の見直し及び実証運行
・コミュニティバス・乗合タクシーの導入準備
（停留所の製作、設置、車両用マグネットの製作など）

（２）バス利用促進・情報発信

交通事業者や商業団体、市民団体、行政等により構成される「延岡市バス利用促進協議会」と連携し、定期路線バス利用者の利便性向上に資する各種施策にソフト・ハードの両面から取り組み、市内バス路線の利用促進を図ります。

・小学生など低年齢層、高齢者を対象とした「バスの乗り方教室」の開催

・定期路線バス及びコミュニティバス等の時刻表等の作成及び配布

・主要バス停留所の整備（上屋やベンチの設置など）

延岡市地域公共交通活性化協議会

平成23年度　歳入歳出予算（案）

歳　入　　（円）

款　項　目	予算額	前年度当初予算額	比較	説明
1　負担金	7,546,000	9,534,000	−1,988,000	
1　負担金	7,546,000	9,534,000	−1,988,000	
1　負担金	7,546,000	9,534,000	−1,988,000	延岡市実施分
2　補助金	7,546,000	9,533,000	−1,987,000	
1　補助金	7,546,000	9,533,000	−1,987,000	地域公共交通活性化・再生総合事業補助金（1／2上限）
1　補助金	7,546,000	9,533,000	−1,987,000	
3　繰越金	22	0	22	
1　繰越金	22	0	22	
1　繰越金	22	0	22	
4　諸収入	978	0	978	
1　諸収入	978	0	978	
1　諸収入	978	0	978	預金利子
計	15,093,000	19,067,000	−3,974,000	

歳　出　　（円）

款　項　目	予算額	前年度当初予算額	比較	説明
1　運営費	0	0	0	
1　会議費	0	0	0	
1　会議費	0	0	0	
2　事務費	0	0	0	
1　事務費	0	0	0	
2　事業費	15,093,000	19,067,000	−3,974,000	
1　事業費	15,093,000	19,067,000	−3,974,000	
1　事業費	15,093,000	19,067,000	−3,974,000	ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ等実証運行など
3　予備費	0	0	0	
1　予備費	0	0	0	
1　予備費	0	0	0	
計	15,093,000	19,067,000	−3,974,000	

※事業費内訳

コミュニティバス等の実証運行　　13,939千円（国庫補助金額6,969千円）[1/2]
（延岡市が実施）
バス利用促進・情報発信　　1,154千円（国庫補助金額　577千円）[1/2]
（延岡市ﾊﾞｽ利用促進協議会が実施）